

国指定重要文化財

旧中島家住宅

— 中島知久平邸地域交流センター —



太田市教育委員会

旧中島家住宅

- 指 定 区 分
- 国指定重要文化財（建造物）
- 名称及び員数
- 旧中島家住宅 4棟
おもや どぞう うじがみしゃ せいもん もんえいじよ
主屋、土蔵、氏神社、正門及び門衛所、土地
つけたり ばんとう べ や ふ ぞく や そとべい ちゅうもん へい
附 番頭部屋 1 棟、附属屋 1 棟、外堀 1 棟、中門及び堀 1 棟
- 指定年月日
- 平成28年 7月25日
- 所 在 地
- 太田市押切町1417番地

概 要

中島飛行機製作所の創設者である中島知久平が両親のために生家の近くに築いた、敷地面積10,000㎡を超える大規模な邸宅です。築地堀に囲まれた敷地内には主屋、正門、門衛所、土蔵、氏神社などが配され、主屋南側には3,000㎡にも のぼる平坦な庭が広がります。

主屋は車寄部・客室部・居間部・食堂部など複数棟からなり、和風建築様式に、応接室などの洋風建築を一部加味した意匠で構成される近代和風建築です。また、各棟は中庭園を囲むように「口」の字型に配置されています。

4棟あるうち西側の車寄部、南側の客室部は来客をもてなすための公的な部分、東側の居間部、北側の食堂部は居住者の日常生活を送るための私的な部分に分けられていたと考えられます。特徴的なものとして、公的な部分としての車寄部・客室部には瓦やシャンデリアの飾り、襖ふすまの引き手金具などに中島家の家紋である「下がり藤」がつけられているほか、広間の壁のクロスや応接室のカーテンなどに藤の花の意匠が使われています。

平成20年度に旧中島家住宅の調査が行われた際、主屋と門衛所から棟札が確認され、主屋は昭和5（1930）年4月17日、門衛所は昭和6（1931）年7月23日の上棟であることがわかりました。そ

のなかで、主屋の設計監督が宮内省内匠寮出身の伊藤藤一いとうとういちであること、主屋の4棟はそれぞれ別の大工棟梁が担当していたことが判明しています。

建設費については当時の金額で約100万円かかったといわれています。当時の金額を現在の金額に換算することは、当時との価値基準の違いなどにより難しく、正確な値を出すことはできませんが、旧中島家住宅と同時期の昭和6年に、市民からの寄付によって完成した大阪城の復興天守の建設費が約47万円といわれていますので、その金額がいかに莫大なものであったか想像することができます。

旧中島家住宅は、昭和初期を代表する大規模邸宅として、中庭園を取り囲む建物配置や規模、意匠とも充実しています。また、当時の生活の様子を示す附属施設もよく保存されています。これらのことから、意匠的に優秀なものとして、平成28年7月25日に国の重要文化財に指定されました。

※旧中島家住宅は建設から80年以上が経過しており、耐震補強等の整備を行った車寄部のみ室内に入って見学することができます。



建設当時の旧中島家住宅（昭和6年秋頃撮影か？）

主屋以外の指定物件



正門（右）と門衛所（左）



氏神社



土蔵



主屋の棟札



門衛所の棟札

旧中島家住宅 主屋及び土蔵１・２階平面図



※部屋の名称は、建設当時の図面に基づく、
国重要文化財指定時の名称です。

車寄部



車寄部全景（改修前）

車寄部は正門を入るとはじめに目に入る建物で、来客を迎えてもてなすための役割を持っていたと思われます。

正面玄関には唐破風屋根の車寄があり、その床は白御影石の四半敷となっていて、屋根を支える柱の下には桜御影石の礎盤が据えられています。

白御影石については、玄関の階段部分などにも使用されていますが、これらの御影石は、調査の結果、白御影石が茨城県笠間市で産出される稲田石、礎盤の桜御影石が岡山県で産出される万成石を使用していることがわかりました。

柱などの部材も四方柱で節のないものを使用するなど、吟味された建材が使用されていることがわかります。

玄関を入ると、広さ22.5畳の広間があり、左手には事務室が続き、右手には応接室が2部屋続きます。広間、応接室の天井にはシャンテリアが架かり、床はモザイク文様の板張りとなっています。



継目のない玄関階段の白御影石（長さ約4.8m）



広間（改修前）



二間続きの応接室（改修前）



第二応接室（改修前）



第一応接室（改修前）



窓上部のステンドグラス

2部屋ある応接室にはそれぞれ大理石製の暖炉が設けられ、その中には電気ストーブが設置されていました。

応接室の窓の上部とドアの上部にはステンドグラスによる装飾がなされています。このステンドグラスは玲光社東京店という会社で制作されたことがわかっています。この玲光社東京店の設立者である三崎彌三郎は国立科学博物館のガラスモザイクなどを手がけています。

車寄部から客室部に渡る廊下の脇にある来客用トイレの床や壁には大理石が使われています。また、トイレや手洗いに使われている陶器についても当時の高級品が使われていたことがわかっています。



電気ストーブの据えられた大理石製の暖炉



来客用トイレ

客室部



客室部全景（改修前）

客室部は車寄部の隣で南の庭に面する建物で、こちらも車寄部と同じく来客をもてなすために使われたと思われますが、車寄部の各部屋が洋風な作りであったのに対して、客室部の次之間・客間は畳敷きの部屋となっています。間を隔てる襖を外すと49畳もの大広間になります。

客室部から南側を望むと、現在は堤防が目に入りますが、完成当時は利根川の河川敷にあった中島飛行機の飛行場から離発着する飛行機を眺めることができたそうです。

終戦後中島邸宅は米軍に接収され、一時期米軍家族の住居としても使われていたため、本来畳敷きであった次之間はフローリングに変えられていますが、襖や壁紙などについては当時のものがそのまま残されています。

襖や柱の下部を良く見ると水に浸かったと思われるシミが見られます。これは昭和22年に関東地方・東北地方に大きな災害をもたらしたカスリーン台風によって床上浸水の被害にあった痕跡です。



次之間



客間



次之間・客間全景



カスリーン台風による浸水の跡



カーテンレールに付けられた家紋の装飾



家紋入りの引手金具



引手金具の裏には「中島邸」の刻印

居間部・食堂部



居間部（改修前）

客室部の東側にある居間部と北側の食堂部は、居住者の生活の場として使用されていたこともあり、車寄部・客室部の華やかさとは異なり、落ち着いた感じの造りとなっています。

居間部は、主屋の中でも唯一の2階建てとなっています。1階には仏間と居間のほか浴室などがあります。仏間と居間の天井には杉の鏡板が段違いに張られています。

2階には座敷と次之間などがありますが、この2階にある部屋だけは襖の縁や障子などが朱塗りとなっているなど、他の部屋とは趣が異なります。

居間部の東側には、2階建ての土蔵が付属して建てられています。

食堂部は、食堂、茶之間、厨房、女中室があります。女中室の北側の外壁には、現在は壊れていますが、各部屋にあるボタンを押すと、どこで呼んでいるかわかるような装置（電鈴）がついています。



居間



座敷



食堂部（改修前）



茶之間



食堂



電鈴（呼び出し）装置



中庭（平成3年12月撮影）



案内図



旧中島家住宅（中島知久平邸地域交流センター） 〒370-0405 群馬県太田市押切町1417 TEL0276-52-2235 FAX0276-52-2236

太田市教育委員会 文化財課 〒370-0495 群馬県太田市粕川町520 TEL0276-20-7090 FAX0276-52-6080

印刷 平成29年4月（第4版）